

本能学区の皆さんとともに

パートナーシップで

当課のモットーでもあります「パートナーシップのまちづくり」は、行政だけでは当然できない、地域の皆さんあっての取組です。今回、地区計画の策定からしおりの発行までという「まちづくりの核」ともいえる部分を、本能学区の皆さんと一緒にできたことは、当課にとっても、私個人にとって、非常に勉強になり、また次への励みにもなる取組だったと感じています。

今後、しおりについては、建築行為に係わる方だけでなく、まちづくり活動をしている他の地域へも積極的に紹介していきたいと思っております。本能学区の皆さんのこれまでの活動は、様々な地域への参考となり、住民主体のまちづくり活動がより一層、活発になっていくものと思います。

これからも、本能のまちづくり活動を精一杯お手伝いしていきたいと思っておりますので、よろしく願い致します。

京都市 都市づくり推進課 賀長浩絵

「できた〜!」

このしおりが完成した時、心の中で「できた〜!」と叫んでいました。本能学区さんとおつきあいは、まちづくり委員会の立ち上げから、かれこれ4年になります。委員会発足当時、職の活性化・住民同士の交流・元本能小学校の跡地活用・町並みの追求など、参加された皆さんの思いがそれぞれに分かれていて、まちづくりテーマの絞り込みがなかなかできませんでした。それが、たった4年の間に、それぞれの考え方をぶつけ合い、折り合いながら、とうとう一つの冊子をとりとめられたのです。まちにはいろいろな考えの人が住んでいます。それぞれの考え方を尊重しながら地域のめざす方向性をまとめ、文章に記録していく、これはなかなかできることではありません。まとめ上げた本能学区の皆さんに敬意を表します。もちろん、しおりにすべてを盛り込むことはできません。今後も皆さんそれぞれがしおりを読み込み、内容を深め、実際に役立てていかれることを期待しております。Viva! 本能学区。

UFJ総合研究所プロジェクトリーダー 善積康子

「しおり」完成をもたらしたもの

「是非、こんなしおりを自分たちの地域でもつくりたい!」他の地域の方からこんな言葉を聞いて、自然と笑みがこぼれ、胸が熱くなりました。

このしおりが完成するまでに、まちの資源の再発見、人と人との交流活動、本能のまちなみを考える勉強会、他地域のまちづくり事例の学習交流会・・・様々な取組を重ねてこられました。それらを土台に議論し、多くの人の思いにふれて議論し、様々な知恵を借りまた議論する。このような取組の結果、しおりが完成しました。1つ1つの取組、その中で得られた多くの人の思い、信頼、そして、多くの人との交流。その1つ1つが本能のまちづくりにとって、欠かすことのできない大切なものになっていると思います。

平成10年8月、本能まちづくり準備委員会が設立する以前から、本能のまちづくりに関わらせていただいたことを、大変誇りに思います。そして、この「本能」というまちで、「まちに暮らす」という意味を学ばせていただいたことを、大変うれしく思います。

これからも、本能のファンの一人として、まちづくりに関わらせていただければ幸いです。

(財)京都市景観・まちづくりセンター 吉田真由美

～本ものに出会える日～ 賑わう「伝統産業の日」



四条京町家での職人技の実演

「伝統産業の日」とは京都の伝統産業の振興をはかるため、京都市が、昨年、「春分の日」に制定したものです。昨春、伝統工芸品の展示や伝統技術の実演・体験、和装振興のための事業を、この日に地域回遊型で行ないたいので協力してほしいという京都市の意向を、本能まちづくり委員会が受けました。委員会では、本能学区に息づく伝統文化の全国への発信をひとつの課題にしておりますので、「本もの会議」を立ち上げ、京都市の支援も受けて、地域ぐるみでこの事業準備に取り組んでまいりました。

そして、3月21日をむかえ、“本ものに出会える日——おいでやす染のまち本能”を開催しました。四条京町家を受付拠点に、伝統産業の公開工房ガイドツ

アー・職人の技の実演・染め体験・マイキモノプロデュースを企画し、あわせて本能寺跡発掘調査を一般に公開してもらいました。

この日、好天にめぐまれ、四條京町家は開設以来の人出で賑わいました。1階座敷で、職人技の実演、奥の庭では、八坂婦人会による甘酒の接待。2階で、マイキモノプロデュース。観光客の皆様には、落ち着いた町家の雰囲気の中で、本ものの味を満喫していただけたと思います。



奥の庭では甘酒の接待

公開工房ガイドツアー “こんなふうにして作られてるのか！”

1コース3軒で数人ずつのグループで約2時間かけて見学。仕事場では説明を受け、また質問には丁寧にお答えいただき、年季の入った見事な技には感嘆しました。1日で132人。20組でした。京都82名、近畿圏29名、関東・北陸・中部・九州20名、外国の方もちらほら。新聞・雑誌・京都市の全国に向けた広報活動と地域の皆様の力の結集のおかげで、盛況でした。



重春刃物
打刃物



上木友禪
挿し友禪(彩色)



びん工房
手描き友禪一貫工程

今回、工房の公開にご協力いただいたところは、以下の通りです。

びん工房・多田商店・福本糊置・土山
印染・高岡創作作家・上木友禪・勝山
引染・村田刺繍・重春刃物・金彩荒木・
中東染工・馬場染工

公開工房ガイドツアーに参加しました

◇まず“分業”という言葉は学校で習ったことがあるが実際目でみると「あーそういうことか」と実感できて、興味深かった。1つの作品をつくるのに多くの家でできあがっていくのは興味深かった。東京では見るができない過程なのでとても貴重な体験だと思う。あと1つ1つの家も古くてとても感慨深かった。(塚本 瑞絵 / 東京都港区)

◇普段見られない古いお宅の中が拝見できて興味深かったです。着物ができるまでの工程がこんなにたくさんあるなんてびっくり！ がんばって着物を着たいと思いました。又来たいです。ありがとうございました！(菱田 理香 / 東京都杉並区)

◇今日は、大変ありがとうございました。普段では拝見できない染色の工程や、友禪の手染めの実際を見ることができ、とても興味深く、楽しいツアーでした。この見学がまた一層日本の伝統工芸美術としての着物に興味を持つことができ、大切にしてくる心育て続けることができたらと思います。本当にありがとうございます。(後閑 容子 / 東京都杉並区)

◇このツアーは大変興味深いためになりました。東京では見るのできない日本の伝統工芸を見る機会となりました。このツアーでは私がいつも想像していた「日本」を見ることができて嬉しく思います。(パトリック・ビルリクス / ノースカロライナ州・米国) 原文英語→

Patrick Billings (N.C., USA)
→ The Kyoto Kimono town was very interesting and educational. It gave me a chance to a part of Japan that I normally would not see in Tokyo. It reminded me of the traditional Japan that I always imagined.

マイキモノプロデュース “出来上がるのが楽しみ！”

2階ではマイキモノプロデュースを受け付けました。白生地を買っていただき、誂えを希望される着物の種類に応じて、扱う職人さんを紹介して、直接交渉に当たって各自に合う着物を作ってもらおうというものです。生産者にはお客さんの顔を見て、希望の品を作り出す機会となり、お客さんは、どんな工程で着物が出来上がるかを知り、さらに市場価格よりは賢く「本もの」を手にするすることができます。今回は約10人の申し込みがありました。どんな着物ができあがるでしょう。楽しみです。



2階ではマイキモノプロデュースの受付を...

本能まちづくり委員会の
次回開催は

平成15年5月1日(木)午後7時から
場所 本能会議室 当日飛び入り歓迎!!

絞り染体験教室 “また、作りたい！”

本能会議室には、受付開始時間前から、待ちかねたように、続々と来場者。15名ほどの参加者は、講師から説明を受けると、黙々と作業に取り組む。風呂敷やスカーフ、袱紗に、梅や桜、松、竹など、好みの柄を写し、その線の上を縫っていく。時折、講師に説明を求める他は、喋る人もなく、とても静か。張り詰めた空気が流れる。1時間ほど経ち、作業に慣れてくると、お互い作業の進み具合を比べたり、世間話をしたりなど、打ち解けた雰囲気。染めに移るタイムリミットが近づくと、講師も手伝って、慌てて縫い、絞る。1時ごろ、染めの園さんが取りに来る。出来上がりを楽しみにしつつ、一時解散。

午後3時過ぎ、会場には、染め上がった作品が干してある。早く乾かすため、部屋の温度は30度に。午後の日差しも手伝って、暑い部屋の中で、絞りの糸を解く。作品を広げる時は、何人かが取り囲む。期待が高まる瞬間だ。作品が出来上がるたびに、歓声上がる。思い通りの柄が出た人、柄の一部が欠けていて悔しそうな人、予想外によい柄ができた人など様々だ。自分で作ったという満足感はもちろんのこと、また作りたい、という意欲を見せる人が多かった。(村上 真樹子)



絞り染め体験教室風景

本能寺跡発掘調査一般公開 “何が出てきたの？”

この調査のねらいの一つは、ここ本能小学校が信長終焉の地「本能寺の跡」であるかどうかです。調査官の話によりますと「現蛸薬師通＝旧四条坊門小路の南縁に濠状の溝が発見されたことから、本能寺の本体は四条坊門より北の一町四方に在ったのであろうとの推論が成立つ」ということでした。

当日は11時前から、本能学区以外の方も含め多数の方々がお見えになり、調査担当者の説明に熱心に聞き入っておられました。土器・陶磁器・瓦など発掘された遺物は、全部で資料整理箱にして600個もあるとのこと、その一部が展示されていました。織部の焼物は並んでいましたが、遠州の焼物がなかったのが残念です。二人はこの近くに住んでいたはずですから。



本能寺跡発掘現場と出土品の一部

(調査担当者との雑談) “利休は秀吉に、織部は家康に、死を賜っています。遠州は晩年自らお役ご免を申し出、近江長浜の居城に帰っています。どうも茶人と権力者はそりがあわなかった様ですね。”(大井市郎)

The 1st 京都市伝統産業の日 を終えて

京都市では、本市の基幹産業の一つである和装品をはじめとする伝統産業の振興のために13年度に、本市独自に「春分の日」を「伝統産業の日」と制定し、伝統産業業界、地域の皆様、行政が一丸となって、この時期に集中的に伝統産業振興事業を実施することとなりました。14年度は、その第1回目の取り組みとして岡崎、西陣、室町、そして本能学区の4ブロックで多彩な事業を展開いたしました。

とりわけ貴学区におかれましては、皆様の多大なご協力により、地域に根差した「本ものの技」を広く内外に示す「地域回遊型」事業として取組まれ、「公開工房」には140名近くの方々に参加され、受付拠点である四条京町家には450名にお越しいただき、無事成功裏に終えることができました。これは、すべて皆様のご協力の賜物として感謝する次第です。

時代が再び「ものづくり」に回帰している今「本ものの技」はますます本市の大切な財産となってきております。「本もの」をより直接的に消費者に届けようとする動きや「ものづくり」を観光資源としても光り輝かせる流れは止めようもないものと思われまます。

今後とも、貴学区の皆様のご協力を得て次回の事業に取り組ませていただけたらと切に願っております。

京都市 伝統産業課 高見孝幸

編集後記

- 地域の皆様の方力の結集で、「伝統産業の日」手作りの会場に、多くのお客様をお迎えでき、よかったです。ご協力ありがとうございました。(西嶋)
- 差し入れスタッフおにぎりは、鮭が一番人気。(村上)
- 公開工房ガイドツアーに参加して、この価格に、これだけの技術が注がれているのだということを知ると、やはり購買意欲が刺激されました。(N村)
- 本能寺跡発掘現場西側フェンスに、本能まちづくり委員会の掲示板ができました、是非ご覧ください。(O.M)